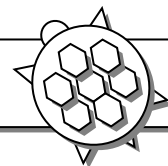


亀さん通信

紅葉の季節を迎えましたが、いかがお過ごしでしょうか！

亀のように歩みは遅くとも、『お金力』をしっかり・確実に身に付けていただく【亀さん通信】第 133 号発信です！

人の行く裏に道あり花の山



突然ですが、座右の銘をお持ちですか。古来より語り継がれてきた言葉には、人間の生き方、真理、戒めなど、様々な先人の英知が詰まっています。今回は**相場で語り継がれる格言**を通して、お金について考えてみましょう！

■ 頭と尻尾はくれてやれ

最高値で売ろうとか、最安値で買おうとか思うなということ。欲の爪を伸ばして二兎を追う者は一兎をも得ずにならないように、八分目程度で我慢する。要は、**骨までしゃぶろうとする愚かさ**を戒める格言です。実際に天井で売ったり、底で買ったりできる確率は何%だと思いますか。なんと 1,500 万分の 1！つまり不可能だということです。ちなみにジャンボ宝くじの 1 等が当たる確率は 1,000 万分の 1。この数字は雷に撃たれる確率と同じなのです。宝くじは貧乏人に課せられる税金だと言われますが、なるほど納得です。とはいえ、人間とは欲深い生き物です。分かっているにもかかわらず止められません。いかに**自分の欲望をコントロール**するのか。お金に好かれたいのなら、肝に銘じたいものです。

■ もうはまだなり まだはまだなり

もう底だと思えるようなときは、まだ下値があるのではないかと一応考えてみなさい。反対に、まだ下がるのではないかと思うときは、もう底かもしれないと思ってみてはどうかということ。つまり、微妙な相場の変化に対して、**自分だけの独善的な判断を振り回すことがいかに危険であるか**を説いた言葉です。もう底だと思って買ったら、まだ下がって行って損を抱え、まだ買うのは早いと思っていたら、もう上がって置いて置けばいい。私もずいぶん痛い目にあいました。自分の考えに固執すると、視野が狭くなって周りが見えなくなります。何が起きてても不思議ではない。そう思っていれば、目の前の事象に対して迅速に、かつ冷静に対応できるでしょう。くれぐれも**こだわらないことが大切**です。

■ 見切り千両

買った株が値下がりしたときの心理は、言葉では言い表せないほど辛いもの。その時、多くの人は自分の下した判断に未練を残し、株価が戻ることを期待してそのまま持ち続けます。しかし、株価はなお下がり続ける一方で、ついにはほとんどもない安値で投げざるを得ない羽目に。そして後悔するのです。「少しくらいの損なら、さっさと売っておけばよかった…」と。そこで「見切り千両」という格言が効いてきます。損には違いないが、それによって**大損が避けられるのなら千金の価値があろう**ということ。とはいえ、実行は困難です。誰しも自分の間違いを認めたくないですから。しかし、注目すべきは目先の損得ではなく、長期的な成果。くれぐれも**本質を見失うことがない**ように心がけたいものです。

■ 人の行く裏に道あり花の山

投資家は、とかく群集心理で動きがち。いわゆる付和雷同です。ですが、それでは大きな成功は得られません。むしろ**他人とは反対のことをやった方がうまくいく場合が多い**と説いています。大勢に順応すれば、確かに危険は少ないし、事なかれ主義で逆らわないのが世渡りの定石。しかし、人生の成功者は誰もやらないことを黙々とやってきた人たちであり、欧米では「リッチマンになりたければ孤独に耐えろ」と教えられます。事実、株のトレードをしている人のほとんどが負けているのです。論理的に考えれば、大勢の行く道の先にあるのは花の山ではないでしょう。人並みにやっていたのでは、**人並みの結果しか得られません**。それが、この世界の真理です。

いかがでしたか。どの格言も見事に人間の核心を突いています。ですが、良い言葉を知ったというだけでは意味がありません。普段から自分を躓け、先人の教えが血肉となったとき、自ずとたどり着けるでしょう。**花の山に！**

もう何年も紅葉狩りに行ってないなあ… 今年こそは！

(株)亀山保険事務所 亀山裕弘 (ミル0) 1級ファイナンシャル・プランニング 技能士 0575-28-2768 info@kameyama-hoken.com